

京都奈良兵庫岡山の社寺



御膳部町(毛糠井宅)
下平 忠良

日比氏
鉄筋混凝土講話
友松氏
鉄筋混凝土施工法

甲	70X12	=	840X3	=	2620
乙	45X12	=	540X3	=	1620
丙	40X12	=	480X3	=	1440
丁	35	=	420		1260
戊	30	=	360		1020
己	30	=	360		1080
庚	30	=	360		1080
					10080

常々新刻

公會堂

會堂七百坪
大食堂二百坪
小食堂五十坪

坪六
坪八
坪八

百三十坪
六十坪
二十坪



吉田町上馬区下長者可通新町

舟銅長三郎

吉田町吉田神社石段下

武田五

元寶殿子中御入

棚橋文作

吉田町東區馬一三

林孝堂

吉田町東區馬一三

内庭虎次郎

吉田町東區馬一三

龜岡末吉

河原町二丁目上

大瀧新之輔

押中區馬場馬場

上二五 塚本清溪

市地通油小路西 竹内栖楓

東洞院池止
上 二四 功貴 甚三郎
尾門一寺五九

川島甚兵衛

大隈子奈又南農人時二ノ市

山田寅次郎

從七倉子奈津町
高水正方郎

大正二年七月及八月

文部省引出展覧会開所

兵庫縣

和興寺開山寺

尾ノ崎町

桃山

全 護国社殿

左

左

若正寺社分殿

兵庫縣山田町内上ノ
八幡神社分殿 左 山田町内上ノ

(神戸市ノ北九二里)

岡山縣

◎ 神社協社分殿

若中町西宮田村

桃山

◎ 國幣神社

(津山ノ北一里半)

中山神社分殿

左 殿一ノ支村

(津山ノ北二里)

◎ 神社高野神社(二ノ宮)

(津山ノ北一里半)

以上ノ三處ニ於テ

● 曲皇国神社虎門

大柱版を見んべし

麻の彫刻をんべし

柱根巻を其文様相を草見んべし

● 三十三重堂

東ノ形優美ナリ

内装仙像ヲ法ニシタル者匠を新築

ナリ世里何れノ地方ニ例ナシ

テコレヲワットハル者ト昔エテノ仙像アリト云モノ

模似タリニカ

● 付物鏡

武具、仙具、唐画、彫刻、鏡像列陳

金玉、陶器、漆器、瓦石、銅器、等々あり

● 御所

小御所ノ建具純和様ニテ面白シ

殿舎ノ櫓は青殿々様様ナリ

● 二階観堂

あら門ハ桃山ノ遺構ヲ稱スルカ定規ナリ

ナリ又主殿及大座堂ヲ稱スル桃山ノ様式

建築ニシテ大座間ノ傳教全成ノ見ナリ

日中建築者其安堵ナリト云ふカ宜シク

ニテ有リナリ

● 下加茂

龍ノ表、日ノ表、川ノ内、境内ノ曲道能住ナリ

ナリ此處ハ其ノ境内ニシテ生クナリ也

● 知恩寺

山門、本堂、鐘樓、經堂、
 若元執事、住持、
 大木方丈、八寶殿、
 大木方丈、八寶殿、

● 八坂神社

● 九曲寺

全副殿、
 以對面、
 以對面、

如是我國、
 以大、
 時、
 次、
 已、

普現、

四、
 看、
 看、

● 圓山寺

● 御大寺

● 時雨亭

● 金庫

● 總門

● 表門

辨山城、

手法奇技アリ大略は唐門式ナリ 器ハハ高
 臺ノ連ありて純粋山式ナリ
 唐門ハ桃山ト雖も成レ程ナク 趣ヲ異ニスレ
 且ツ宮ニ非ル風ヲ盛ス 純粋山趣味ニ云ス
 滋カ爾唐門桃山式
 所々至聖堂等には宮殿式化セリ
 飛身其趣山趣味ナリ
 飛雲閣 桃山趣味ノ位安の建案ナ

東寺

教智院ハ山建寺ナリ玄園及ツノ附寺
アラン殿ニモナリ

南門即チ前ノ蓮花王院西門ハ蓮花王院南
門ニ合式ノ山建寺ナリ

大師堂ハ空室也性候是則不味ナレシ

挂刺窓

庭ハ巧ミ失レテ露ニ應心難シ

⑪

京都府中宮ヘノ寺ナリ式ノ存ルハ西
白ノ道殿ノ上ニ居ル殿ハ蓮花王院ナリ
其ノ様ニ照テ天ナリ其ノ他ノ殿ナリ其
然又即所ノ性ナリ其
本末ナリ其ナリ其ナリ其ナリ其ナリ
其ナリ其ナリ其ナリ其ナリ其ナリ
其ナリ其ナリ其ナリ其ナリ其ナリ

醒睡手

九指金剛盤

印度或ハ西藏支那ニモナレバシ
如キ意

空ナリ其ノ鳥ノ毛割

僧院云白王宿寺印信

後奈良天皇宸筆心經

五知窓

其ノ他多敷ノ用安人教ヘベシ

桃山百双ノ様ニ綴幕ノ屏風ニ筆

者ハ生駒等ナリ其ナリ桃山ニモナリ

永亨ノ之月ノ男色ノ建老下リ殿ナリ

東寺ハ山建寺

山建寺

山建寺

山建寺

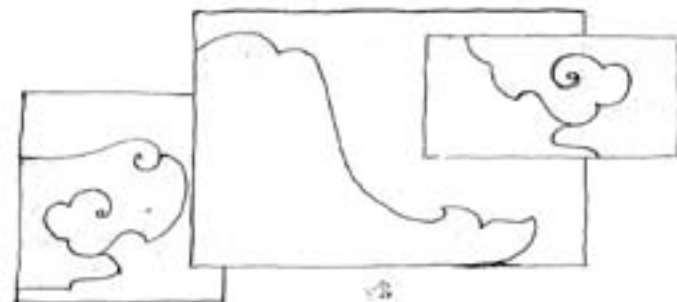
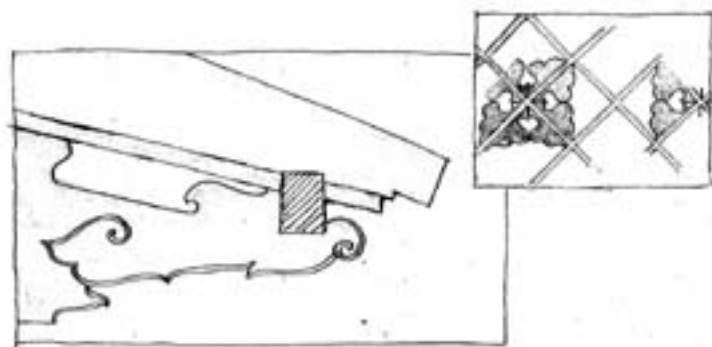
山建寺

秋使のり 山雲のり
所懸のり 山雲のり
青雲のり 石田のり

●上醍醐経義は隅丈ヶ能ク見ル
支那式ヲ見ル

北野社三光門



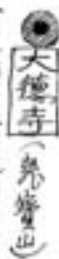




金剛

夕佳亭 金長宗和好
不動堂

天正年中厚田赤家建立
向持家尊等子一部、桃山式ヲ認ム



大徳寺 (外堀山)

方丈顯張即之始、山ノ玄惠法印之建ッ
今、寺ハ後、建嚴蓋勝建ッ寛永十三年
方丈ノ後、南山大燈圓師ヲ祀ル部アリ
雲門庵ト云フ、寛永十三年進之

法堂

併殿

三門

勅使門

唐門 (累樂殿ノ中)

浴室

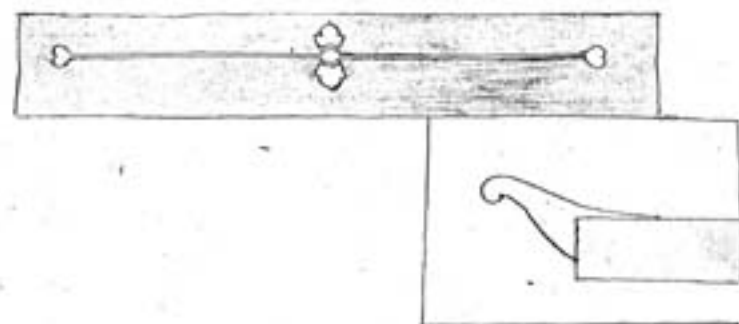
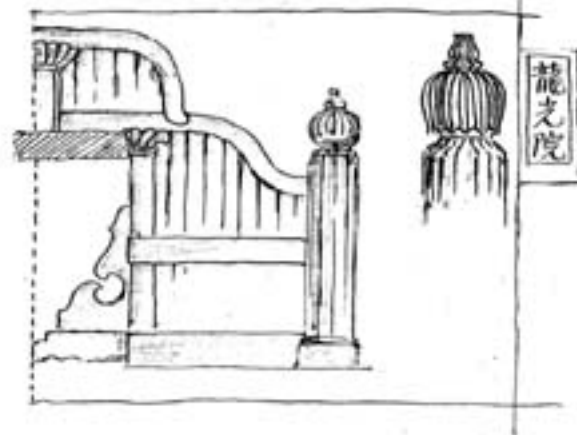
鐘樓

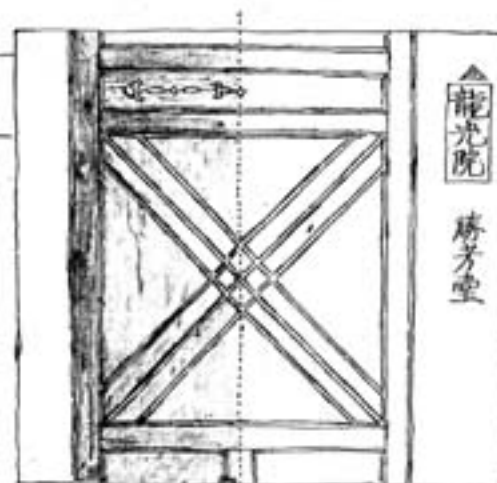
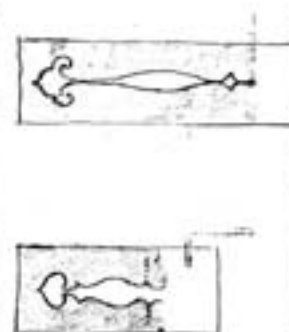
經藏

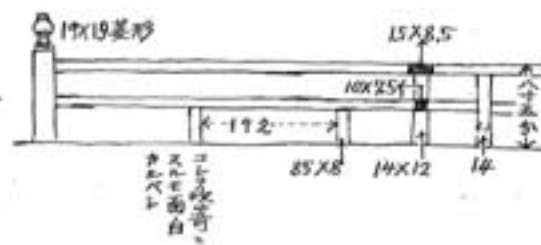
圓珠庵

○通仙院樓ニ
圓文ヲ刻ス









孤蓬庵

方丈

忘筌

山雲床

直入軒

編笠門

葺アリ

皆小堀遠州ノ意匠ナリ庭園モ然リ
奥ニ不昧公ノ増建アリトモ趣味頗ル劣リ

● 真如堂 本堂

宝永元年

七間七面三間白檜

故障ヤ所

軒材拱微カ、傾下セリ

縁板三分段板五分

左右段全部

高欄二分

軒材之折れあり

枯木二割以内

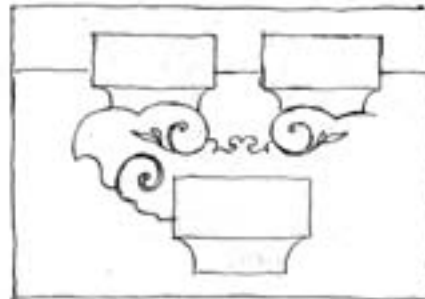
屋根瓦二割以内取替

向科柱根巻金物

● 法隆寺

▲ 南大門

永享十一年再建





法華

▲金堂

国宝

藥師坐像

全

吉祥天皇像

全

孫勒立像

▲本堂

國宝觀音

●薬師寺

佛足石

天平勝宝元年從三位文屋真人

智努王登願レ黄文木入唐

寫傳セリ佛足跡ノ右京四條律院

ミアルマ更ニ轉寫セラレモノ事跡石

銘文ハ詳ナリ

和歌碑

光明皇后歌詠二十首 紫錦石十七首
可寶生光四首

二種磨石ニ彫刻リ

コノ建築隅丈ケニ雅タルキナリ

●南大門外小社アリ鎌倉時代

●講堂ハ二層

●講堂ヲ創立スル時ノモノト云フ

●東本堂

●南無仏堂アリ

由新教ニハ取リ替ヘハ因縁ハ有之故

キコリ以テ太永年中刻ミ之ヲ保存シ戰ハレ

致遠ニ作リ之ヲ聖像令骨ナリ哉

ナリ

●東大寺

●南大門

天平勝宝四年創立應和二年大圓寺

敷創ミ成之身ナリ材々々再建ス

柱三二尺ナリ

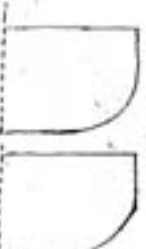
築地ノ跡残リ下ニ人又敷石壇十四尺

高三丈位ナリ

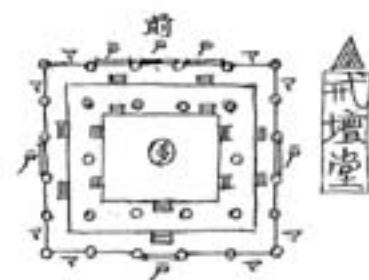
●大仏殿



斗拱 左ノ三種ヲ品用ス



●巨鐘 厚サ八寸(七寸六分乃至八分)



春日神社

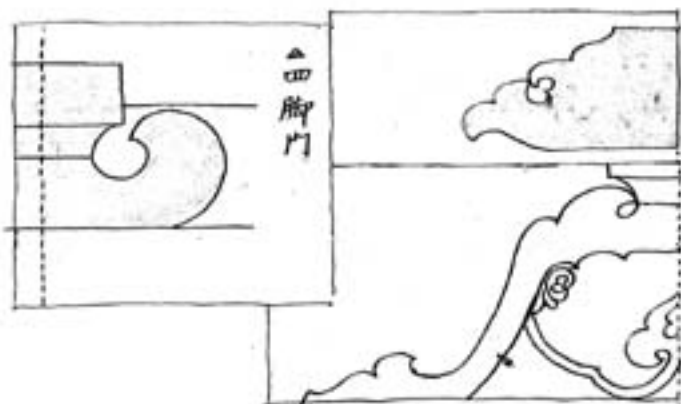
若宮の西

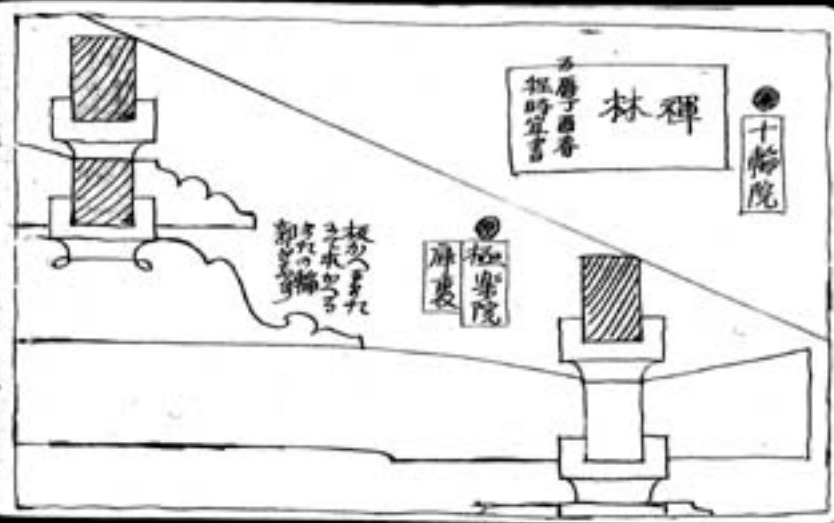
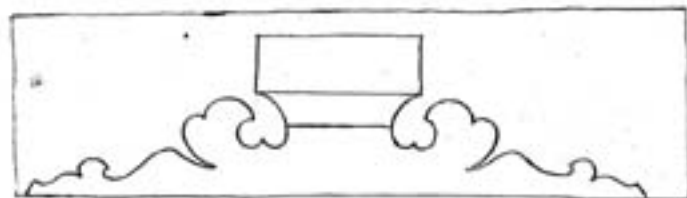
崇徳天皇保延三年
攝政忠通公寄附
石燈籠

▲地藏堂

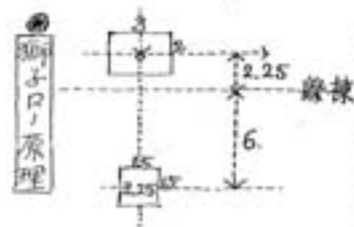


▲西脚門





● 薬医門の原理



● 當麻寺

曼荼羅厨子越、左の記あり
 「前絵師左馬允義原東條大二信源
 權守義井友貞仁治三年歲次壬
 寅五月廿三日大勸進阿闍利禪良」

△ 曼荼羅堂

須弥壇高欄空致日錦
 淨喜長谷妙訓親承久
 天正十一年亥未時正二月六日



須弥壇 寛元元年の銘アリ

△ 金堂 正中三年修理

四天王殿此其様ミナ頼アリ

△ 講堂 乾元二年

▲東塔

二層三層共に二重閣ナリ
枳間に束ナキヲ以テ異様ニ見ユ

▲西塔

露盤見ルベシ水煙ハ法隆寺式ニテ
巧妙なる意匠ナリ

◎奈良博物館

金山寺香炉

大定十八年

盃盤

傳聖德太子用

七絃琴

藤池墨書云

開元十二年歲在甲子五月五日

於九龍縣造

印

古ノ押子手形ノ遺ナリ

官印ノ家印ノ名印等ノ別アリ詩ノ句

をワ彫リタルヲ透印ト云フ

信印ハ寺號ナリ彫リタルモノ

線印ハ時德應永ノ頃明國ヨリ輸入セル

銅線ニ閉タル銅印ニシテ絲質合内ヲ記

スルモノハ斤一額ヲ添付セリ銅ニテ上ニ

動物人物等ツク

四

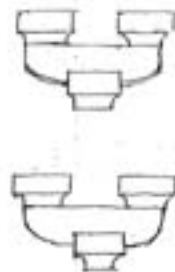
大薩求明王像
傳宅古

仏画数点（長崎守書ノモノ多シ）

寶永二年，鐵燈籠

牛堂

祝堂内部分知照の事とて、
大體東海を虹標の混用あり
二斗半は向振のものと、
和標大面とて、
和字はわい様あり、
要するに和標とて、
混和せるものなり



叔首式

大神宮 春日社各殿

三十三萬壺 鳳凰壺

新華師寺本堂

九縣寺本堂

当麻寺金堂

虹梁式

法隆寺食堂

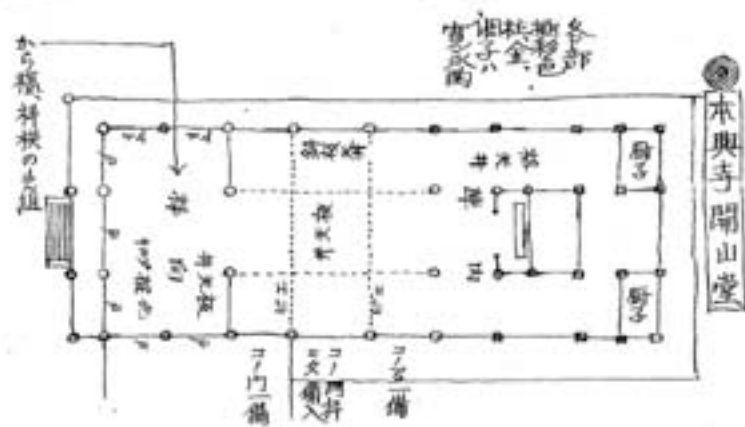
全傳法堂

極樂世界裡

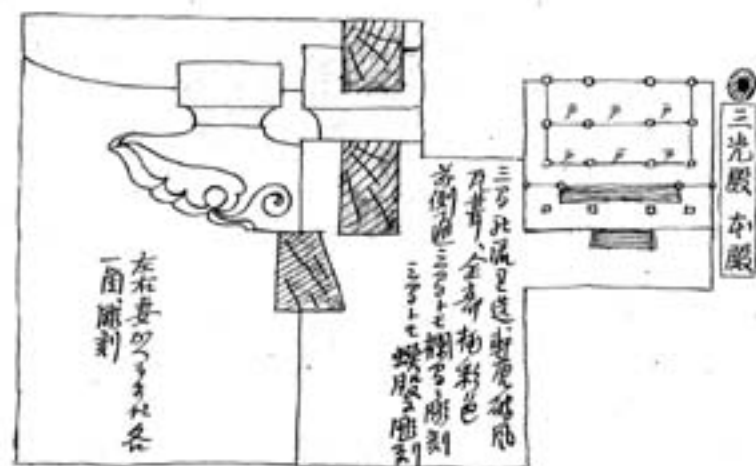
海龍王寺西金堂

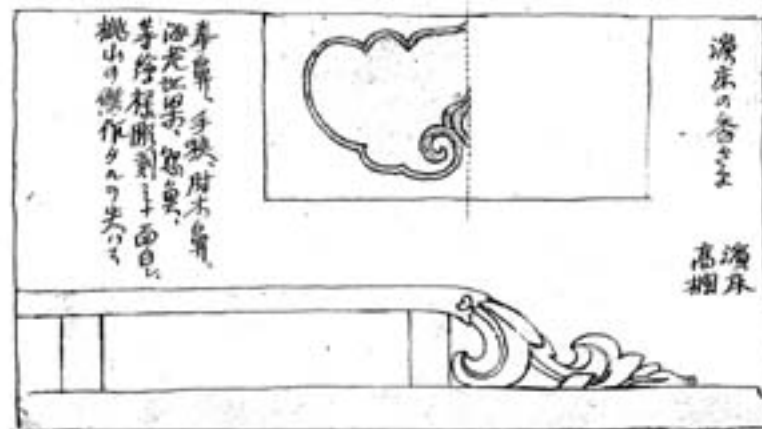
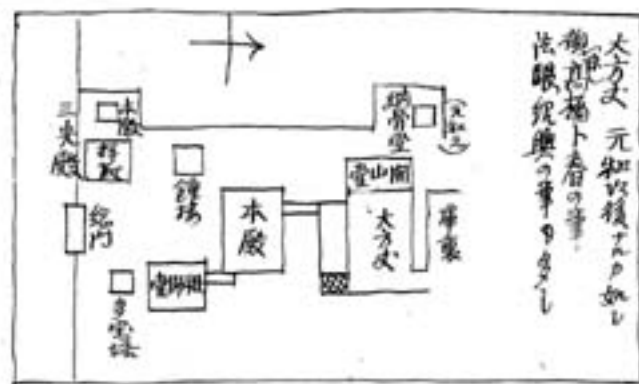
當戶寺曼荼羅堂內陳

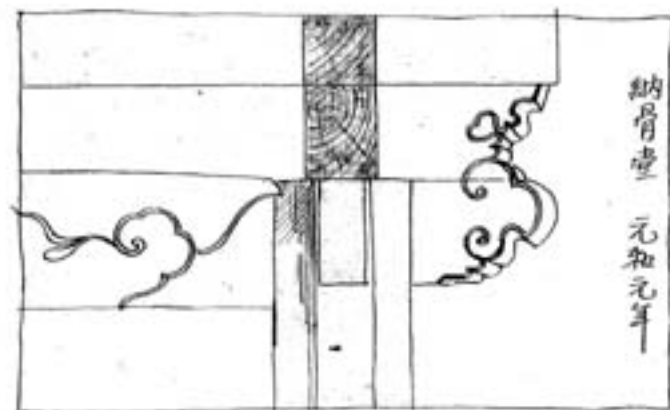
三月愛禮堂內陳



創立 應永廿七年 大物浦建ツ
元和六年 今ノ地ニ移建ス
南山堂ハ文明元年 正月廿三日創立
方丈ハ應永廿七年創立
鐘樓 文明六年 十二月九日創立







中村八幡社

丹生山田神社、一條天皇長徳元年
開基、六條の幡と云ふ本尊有り
云々也

三聖塔ハ享德二年十月十九日起工
長祿元年十二月立柱

二、三月上棟

又正元二年正月廿九日

文正元年三月廿九日竣成

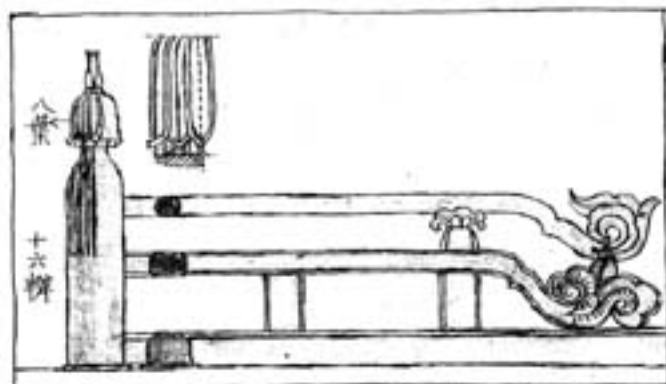
本尊八元ト三尊阿彌陀大目如來ナリ。

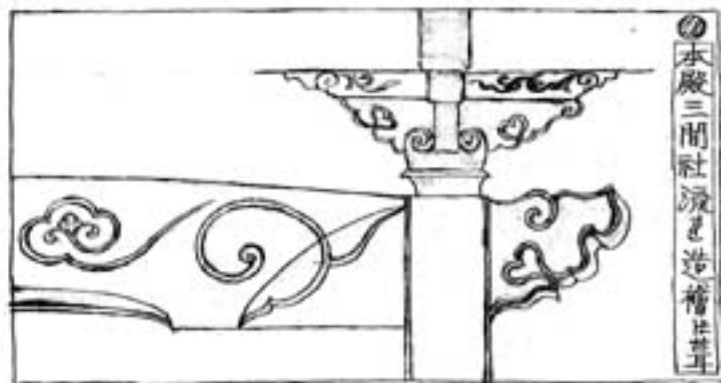
此は須磨壇アノ美ナリ鼓ノパ子ルハ

面は白き彫刻アリ

高橋毛面白

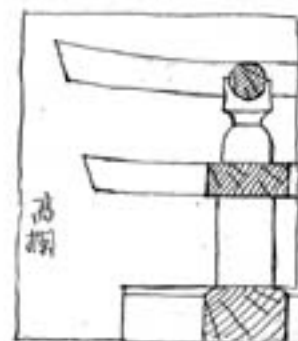
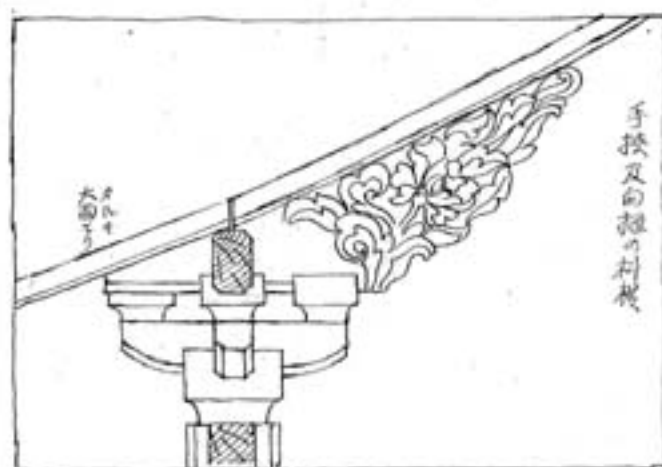
厨子三方、龍ノ彫刻仕上。蛙殿の代りに
水鳥の彫刻アリ軒ノ拱マ拱マレ
内部お上格天井、小紐、





	中	殿	檼	地	以人
初	12	10	6	6	4
二	10	8	6	6	4
三	8	6	6	6	4

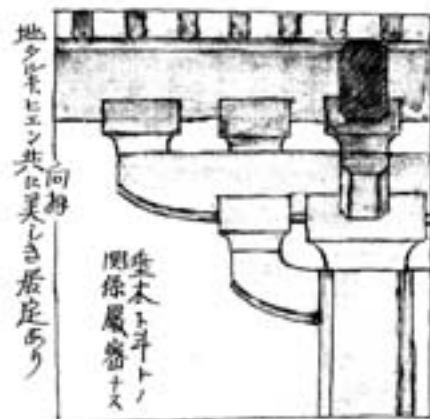
軒足り
 料拱肘木はから様式組織及その他の
 手法は和様三手先ニテ軒、桷、耳、
 四方共中ニテ板唐戸、脇のる格連子
 二層、三層同断
 高欄は三層欄中の同断放し
 丸輪鏡窓



和様、室所時代
 本意ナクニテ斗拱ナシ
 清楚ニテ彫刻ナシトモ手換
 全部後世ノ改竄ヲ見ス



石王寺神社本殿
 三ツ趾流北造
 山田村福地村

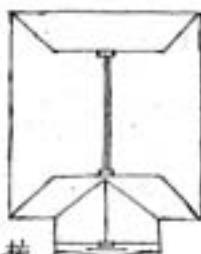
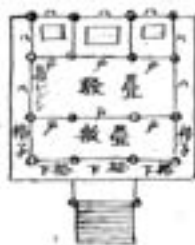


● 經動寺 (真言)
聖觀音 (弘仁)
地藏 (弘仁)

右 阿弥陀
本尊大日 (弘仁)
左 釈迦

● 繪社本殿 (縣社)

岡山縣古田郡西宮田村
毛利元就の創建と稱す。永禄五年三社
棟北ミヨシハ明暦三年ノ再建ナリ
尔來數回ノ修繕ノ後アリ
永禄十三年毛利元就ノ下知狀あり



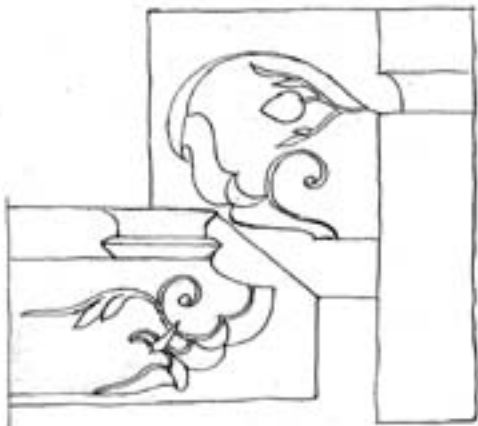
棟

マ破風の境世ノ
附加ナル中山
ハナレ

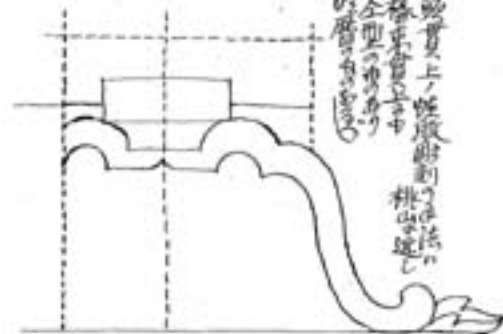
猪首ナル形式ナリ神社トミテ前後棟ヲトリ
入母屋トセルハ與例ナク是ヲ唐破風ト云フ突出
セテ回轉ス唐破風ノ上ニ更ニ小ナル破風アリ

[illegible][illegible]

向海路より舟の針子最良す。松山式ナリ
ソ也。開刻の大部は既磨ラレ、
増極ニ一齊アリ例セバ

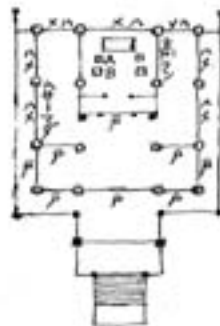


惣工上ノ帷帳彫刻ノ法ハ
様式合致ナキ
全型ノ内ナリ
彫刻ノ有リ
桃山様式

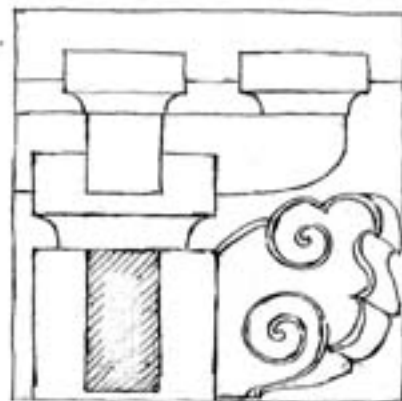
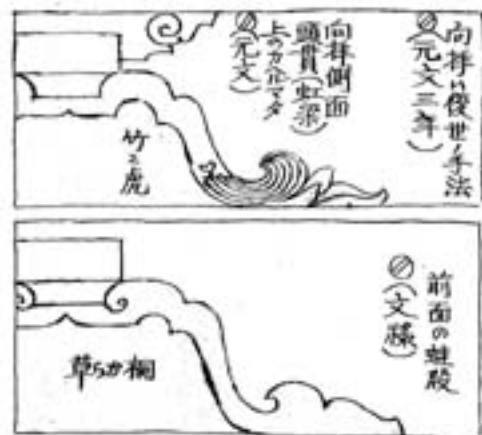


●中山神社(一宮)

永祿二年尼子晴久建立ノ後再建
ナレ但修繕多少アリ
屋根檜皮葺
元東極彩色今僅に虹段彫刻ニ残ル



駒子慶長式アリ
A和太
B和太
内許合立ノ層疊
周囲對出組カヘテ形状及彫刻純桃山式
枅棟礎大
根束ノ間ニモカハコトアリ

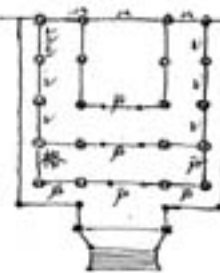


◎元文三年戊午御水殿の向拝椽板及
勾欄を改作せり

妻飾り大休は於て総社全レ
但しハ梁と束トミナリ他は何モナレ
東ノ左右ノ梁ノ出ルモ総社ニ似タリ

②二ノ宮

神門 建久三年握麁暴時奉行建立ニ
格



本殿大休は於て此ノ社ト全ク相同シ、
但殆ど全部皆又文三年ノ再築方ナリ
屋根向殿前若者ナリ著シキ急峻ナリ
(格・皮等)

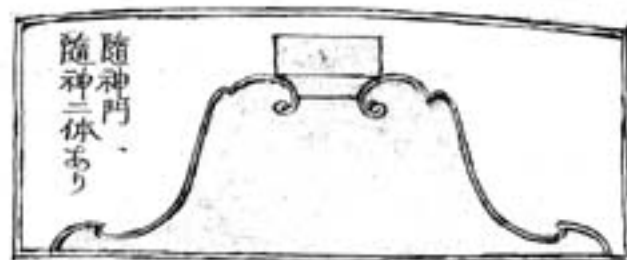
△末社八幡神社

一間社本殿と同型社にて軒唐破風あり、
梁ノ端面白シ色彩ノ痕あり、

△末社三寄神社

一間社本社と全型



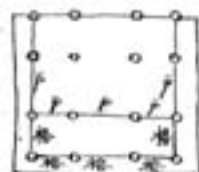


随神門
随神二休あり

●徳守神社(蘇社)

津山町内

三箇四方前三社と同型ナリ
年代ハ寛文頃カ
但モ三社式ヨリナニシテタラシ
左ノアレントナル

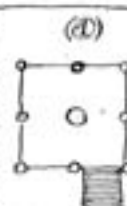


本殿

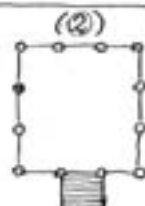
拜殿

慶長九年ノ建築ヲ後世ノ追々レテ修
補シ慶長ノモリ(見流新)尾體木ノ象及
カハルマタ等ニ他ノ全ク最近式トナレリ

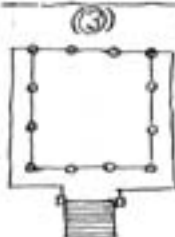
美作に於ける前記の建築式は地方人之
も大社造と云ふ、出雲大社より出たる
型と辨スヘクソノ地理的關係も頗る面
白シト思ふ、即ち



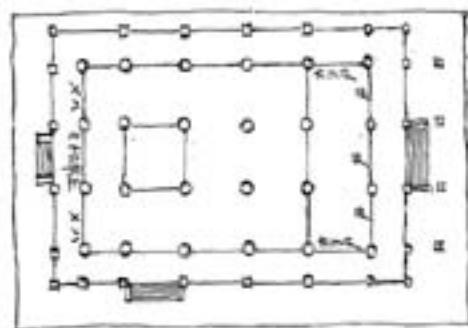
此の形も修正して中央に入口を設けんとす
此は

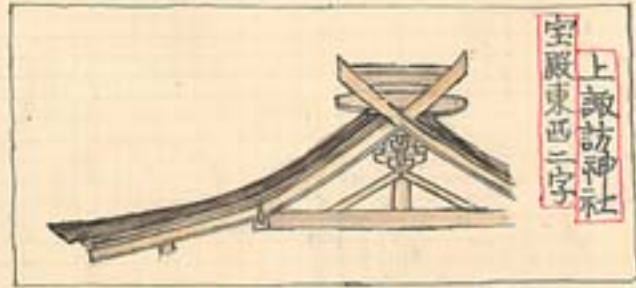
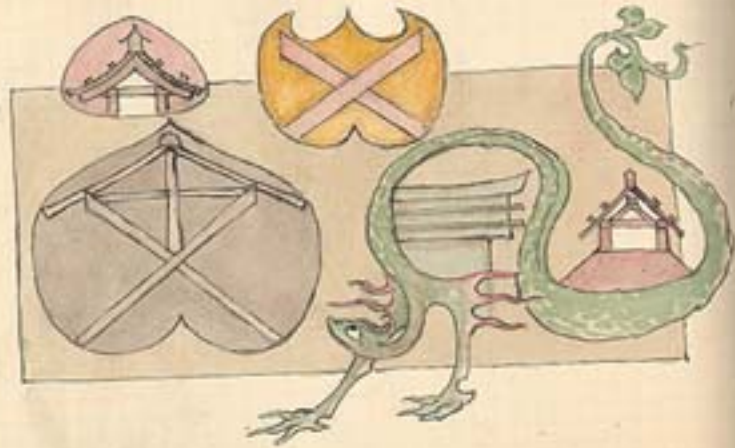


ノ如クナルベシ、而シテ階上ニ屋ヲ附シ、
據リ設ケレバ

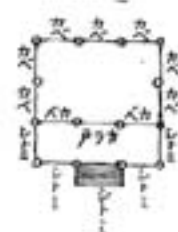
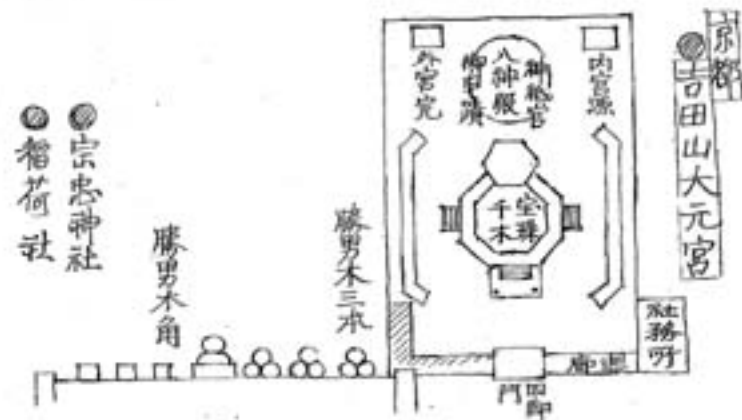


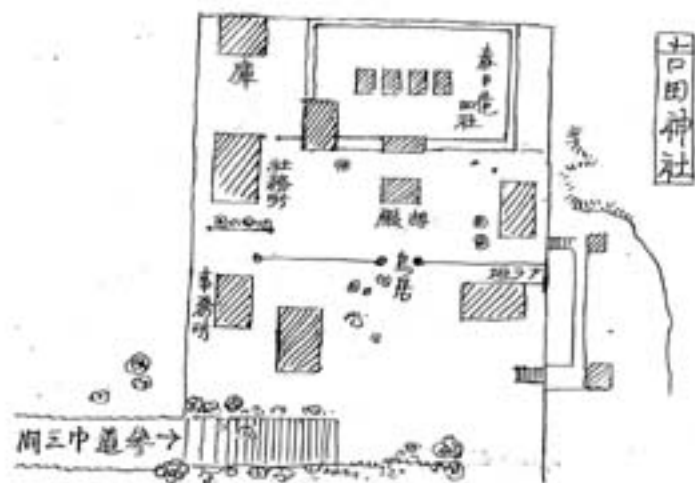
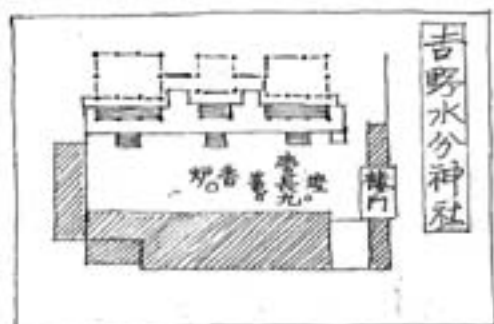
ノ如キ形トナル。
故ニ見春日遊ヨリ出タル如キモ実ハ
直接大社遊ヨリ出タルモノト見ルベシ
切妻ノ入母屋ニナリタルハ自然ノ變化ト
解スベシ、伽藍作ウノ空氣ノ為ナリ





上諏訪神社
宝殿東西二字





●勝手神社

老野水分派社と全型
尺三間社千鳥破風付流
造加二ツ并ヒタルモノ

●金峯山寺

康正二年ノ仁王門ノ風鐸
慶長二年ノ本堂ノ風鐸

市村氏 九都最古史料

觀書 都九都之下

・朱馬忽車以登先都居高句麗叻都

・刊九都之山銘不爾之城

之ニ都ア三説アリ

1. 九都ハ山頂ニアリ

2. 九都ハ山腹ニアリ

3. 九都ハ山下ニアリ

又九都ハ山上及山下ニアリ



Phibet = 八, Bengal = 十

支那 緬甸, 緬甸, 什伐納, 興, 西奈, 采衣納, 瑪納,
赫依納, 忙, 忙,
契丹語 出 外 代 斯 克, 吉代, 迄代
蒙古語 契丹語 也。

農公五年 會吳于善船 善船吳謂之伊頤

穀米信, 吳謂善伊 謂穀米

(= 時代吳語格別ト見)

Energy = 儲能 Ether = 清氣又ハ

Mous = 理 Mamma = 甘露 Nirvana = 烏有 也 面白キ

宣公四年 楚人謂乳穀 謂虎其菟

吳ハ句吳, 越ハ於越, 婁ハ和婁ト聞ヘ Rossia = Orussia
ト聞ヘるか如シ云フ

匈奴軍干王莽ハ降奴股干ト云ト彼, 屈達, 采衣番干ト云ヘ
柔然, 蠕奴, 回紇, 回鶻ト云ト如キモ 同根ナ

西夏, 趙元昊ハ元卒, 吾雅, 我翁ト呼ビカヘ
牙口, 大, 牙口, 輕蔑ノ意, 尊敬, 時ハ吳字ヲ用エ Padre = 巴礼

Rossia = 羅刹 nicolaz = 羅刹

America = 花旗國 Papua = 吳ハ

字音異漢ノ例

1. 羅子, 休屠, 契丹
2. 寶順, 苛許, 龜茲, 謝氏
3. 吐蕃

Pinnang = Pinlan = 檳榔

Penang = 檳榔嶼

NとLと通フ

4. 44 - Laim auf dem Leim gehen
Liebthum 遠征(淮南山ノ事)

家畜→飼養(周礼)

直譯 查訖

對訖 音訖

乒乓 = ピンポン

波斯 = 白西, 包社, 巴社, 高香, 百尔設, 比耳西

Portugal = Rustania, 莫卑里亞^{西譯人言ハ}西境, 大西譯, 仙郎機^{西譯人言ハ}

Russia = 丁零, 烏洛候, 駝戛斯^{北四十餘種アリ}

Cambodia = 金波乍, 金巴國, 金巴埠, 金塔國,
= 高綿, 高雷, 吉茂, 如十五種

天山 = 十種, Tongli Uka の土地ノ音ナリ

建築は食料の如し、人の要する食料は、材料を履し、コレヲ料理ス。
食料は材料、性質ヲ利用スルヲ能事トス。
水や米の浸きも、性質ヲ利用スル。
建築も性質ヲ利用スル。
弾力アリ、堅キ、強キ、又耐火、耐水、又色澤。
材料は、構ハス、整理ニ持ヘルハ、食品ノ如何ニ係ラス、整理ニ味ヲツケルカ如シ。
新しき材料ヲ得タラハ、性質ヲ吟味スルニ而シテ之ヲ利用スル。
先ツ甘ク辛ク、セシトモ勿レ、針金コンクリート論ハ先ツ鉄金コンクリートの性質ノ研究ヨリ始マル。
研究不足ハ、鐵の如ク料理スラレト云フカ如キハ、妄言ナリ。

Samagiri

Udayagiri

Vipuragiri

Ratnagiri

Bairagiri

Gridhrakata = 罽闍山

祇園精舎 = 迦多林精舎

= 割多山

(祇園, 迦多林... 幾多の大和の地に在る)

内容と形外

建築は関スル思想等々の問題ハ厥ヲモ
實スヘキコトナル
突如ナ思ヒ出ルコレ必シモ思ヒナキ
思フ存分論スモヨイ
只モ修養ナキ出舞目ハ困ルコレヲ直ニ
実行セントスルハ便ニ困ル
内容と外形と云ふ問題は本年四月に
於テ……
其大結論ハ……

コレ於テの自分モ一言を述ヘタム但シ
氏ノ内容ハ無形精神の方面ナリ

愛ハ有形の方面ハ精神の方面ナリ
氏ノ内容外形とは多少異ナル意味ヲ有
氏ノ外形ハ主としてエッセンススタイルを云ふ
ものニ凡テノ外に現れた形(フォーム)を云ふ
吾人ハ外形の美の弁ヲナリ力ヲ内容の充
實の弁ヲナリ先ツ欲スベシ

外形自ラ美アリ外形美ナルモノ然レモ
内容充實セザル
建築上の要求する目的、住家とすれば、
材料、構造、内外の設備等々ヲ充セルモノハ
必ず外形美ナリ一見美を云ふと思ふは、
一時の感あり久シキ鑑照にヨリ其美を悟ル
要セザル「建築の生命」ハ「デザイン」ナリ

如何ニテ請來ラセ満足ニカスヘキナリ
斯の如ク努力ガ結果外形ハ自ラ成
自ラ成ルモノハ必ス美ナリ、無理ニ作ルモノ
ハ必ス美ナラズ

皆レ社會ノ要求ハ單純ナル小建策ニ
畢シトシテ當時於テ天ナモ復雜ニ今
日社會ノ要求ヲ充スルハ昔ノ建策ヲ直寫
シテハ間に合ハズ今ノ社會ノ要求
ヲ充スエマテモサルベカラズ即チ創意的
ノモノヲ要ス

佐野工部士曰夫銀行をテブするに先づ如何ナル外形ヲ選ビシカレシムヲ如キ誤久先ヲ銀行として要求リ楚スヲを考ヘする人ハ外形ハ

聖賢の言

王侯の二不足又の世に於ける人々の情を
不可少の時に當て定つた此凡そを謂ふに
人々の自己の爲を求むる其の路無きといへば
タル者、徳を以て出づる可なり。
何事の爲も損なふ事無きにして徒に我を
増長せしむるの自己、棄ててこれ大愛。

建業アノオホトキニテ、テラール・テコニシヨシ、チ原手
ハオノ人を見ても感心するも、自分又ハ快活な氣で、
「云ふは、此ノ世ノ趣也」
我ハ淫を好む故ニ流シ、我ニ盜を好む故ニ盗
ニ期シ、此ノ社會ハ暗黒ナル人

私室内にある時と公衆の内にある時とに推し
異ある所あるべし。建築は亦公衆の前に置

憲法も、今やとして新憲法を催せしめるが如く
ものは戒めし

見場を開展して快を貪はんこともは
危し。

○大正四年を遡るに當り、陳維を觀し前

○その二區を述べて諸君の教を乞はん

○正平界は重歩せり、然りとて他の文明
重歩にせられ何

卷之四

① 問古主義——老年——祖述

③ 進主義——成年——改竄

② 陸運生——青年——獨創

之に従て自ら還るべきありと、實に
至言あり。

Gehalt bringt die Form mit,
Form ist nie ohne Gehalt.

Goethe, *Pachipomena* zum Faust.

Von Dr. Fritz Hofer, Strassburg i. Els.

realistic. Gottfried Semper 3.

ideal type. Mois Regel 2+

1. 读读下面的句子，想想它们分别写出了景物的什么特点。

西支那の文化と宗教 = 佛敎の歴史と地理の研究
 八兩茶屋の文化と宗教。母家、北支那の文化と宗教
 714. 3. 2

Kuntz & Greville

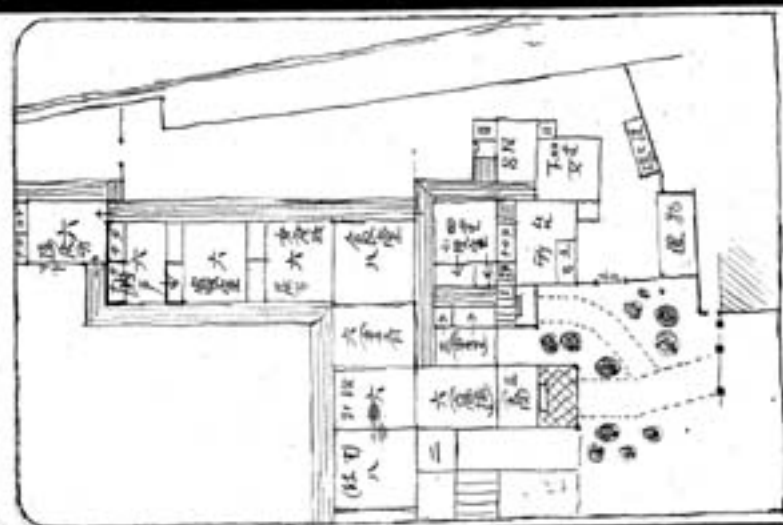
(10) 194. 100/100

内容に形を提へるまわだ
内容も形もあらう

實業の美と善

は、けい美しき器といふものは人に適用せらるる。美と善とは同じ意味とする。美人とも骨格がある。骨格のよく発達して力をも表現するもの。皮膚の滑く眉目秀でてたるもの等あるべし。建築にも材料構造の堅実なる美あり表面の手法熱心装飾の美とさきもあり共に趣を錯綜するものさ相違あり。去れて又之を体路おも結構が大切あり。人格秀で意識高く志操堅固なる仁愛の情深々蓬頭垢衣口を下げた。又は極端ある奇異の服装しても自分の勝手である。自分だけおれはいいやいふふは不可あり。これ狂人の沙汰である。尤て凡て是を善は人目に曝露するものおれは行儀は相當調へさるべからず。

美しい建築を作らんとするが
善い建築を作らんとせよ
善い建築は必ず同時に美しい



① 古塔

② 大社造と神明造との比較

③ 飛鳥時代の藝術と大陸藝術との関係

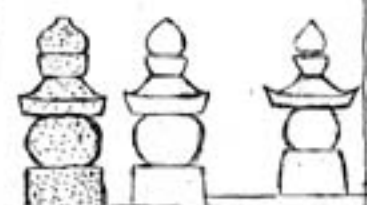
④ 奈良時代に大改修された平城宮の遺跡と関係

⑤ 二年

⑥ 桃山時代の建築の特色

⑦ 桃山時代建築の安土・信濃の塔

⑧ 徳川時代、神社各一ツ塔をくべし。



時代別塔

的部分

⑨ 塔身
⑩ 塔基
⑪ 塔礎

⑫ 塔身—佛像
⑬ 九輪—變化多
⑭ 裝飾

分類

- ① 目的 (増資利塔、記念塔、供養塔、裝飾塔)
- ② 字源 (仏道、同佛、字塔)
- ③ 様式 (漢、西、唐、宋、元)
- ④ 層 (單、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十)
- ⑤ プラ (八角、六角、四角、三角、復原形)
- ⑥ 材料 (石、磚、木)

③ 印度塔

④ 漢塔

⑤ 西藏塔

支那塔

- ① 支那建築中、最取味アルモノ
 - ② 外國人、支那塔觀
 - ③ 塔ハ外國種ナル故種類多シ、殿堂ハ然ラズ、
古ヨモノヲ造ル鐵工、技合スルカ
 - ④ 塔ハオリザン中央アシアのモノナリ
 - ⑤ 六朝ノ塔
 - ⑥ 唐ノ塔
 - ⑦ 元以後ノ塔、ラマ塔
 - ⑧ 佛塔ノ塔、是ハ一字ニ盡シ、印度式、
西藏式
 - ⑨ 道塔
 - ⑩ ミナレット
 - ⑪ 支那人、意匠ニ變化多シ
 - ⑫ 結論、日本ノ關係
- 法隆寺式、龍宮造、七層、十三重、
八角、九重、八角四重、ミナ支那傳來、
多宝塔ノミハ日本ノ工也

支那塔の複雑十分ナリ、
西藏、印度、イタリヤ、復雜ニシテ、日本
は不十分であると思ふ。





④ 印判屋と家刻家

大工と建築家

生人形師と彫刻家

かわかど喜劇

絵かきと絵師

何れも似て非なる一は型に由る技を弄し一は獨創に由る深き意を現す

⑤ 巧手型工と囚へ巧は技を弄するを

黒人と云ふ之を能くせざるを白人と云ふ其の藝術家は其の巧手人あり里人は藝術家あらぬあり

⑥ 流車中と聞く「微の食」ヒトイ

一人前今更の高き仕方がなごし
ても何一品食へるものが無いと不徹
底中亦極めり「何一品食へるものが無い
の二十」とヒトイと云ふ可きあり全
て輕視するや惡風俗々として其の如し
⑦ 流車中亦然として其の誰一人其の
明をせしむる風吹き込む誰一人其の
居る只トモ窮いトモ熱いトモアキライ
居る日本人の不徹底影ノ如し

⑧ 世は絶へず進む昨日の事見は今

日は手凡とある昨日の新機軸は今日
日は陳腐とある新機軸は昨日の事見は
内其の勢は平生普通の風俗とある
人は瞬間も静止するものとあり前進せざ
れば落伍者とあり

⑨ 欧州大乱にて患へるものと一は文明

の裏面に没入道のあるものと曰余漢
は都市人より正直也小児は大人より善
なり故に未開国民は文明国民より善
なり

⑩ 文明と善は両立せり理と情の

両立せざるか如し文明は理にして
後義の情あり

⑪ 梅は淋し櫻は俗あり海棠は仇ツハイ

右の花は其の趣きと趣きの異なる也
梅は淋し櫻は俗あり海棠は仇ツハイ
日人ハ今少し何に對してモ中庸ヲ
得よ然ラザルハ支那人と撰みテナケン

① 中学教員は十歳児児童の心理を了
 解せざるは駄目なり、大衆教授は大
 學學生の心理を解せざるは駄目なり、
 之を解せざるは通ずるにすべし、不可
 なり、教授學生間の親愛は得べから
 ず、見よ、嬰兒の父母を慕ふは父母が
 嬰兒の心理を知りて之を導くべし、
 ② 未來の宰相、大将、大富貴、大學者を以
 て任ずる少年は宜しく之を鍛錬、激
 して向上せしめ、同時に常軌を逸せし
 めざるべし、注意すべし、脱線せざる
 範圍内に於て全速力を以て進めしむべし
 ③ 人の境遇はその家の玄關先きを見て
 知るべし、得意の人の玄關は燈けり、塵
 埃を止め、障子を破れ目あり、得意を
 あらわくして玄關先きの何れもく物淋
 しく沈めたるはやがてその人の失意を昭
 らんとする、前次より

page 11 back

製園 相山、山水

(雇三人)

材料 木村、戸張、奥本

仕標 (雇二人)

現場 市川、井上、西井

(雇三人)

×十五人

甲 木殿祝中(市川)

乙 拝殿廻廊等(井上)

丙 櫓門鳥居等(西井)

師	藤山	160
技	安桐	120
手	木村	75
後	市川	65
	西井	50
	戸張	45
	奥本	60
	井上	70
	相山	60
	(雇)	-----
	在	



72	5	48		12600
73	4	49		14000
74	5	50	新橋坂	12000 一里級時
75	6	51		14000 二里級
76	7	52		16000
77	8	53		18000
78	7	54	磯田町宮城, 増上寺坂	23000
79	10	55		25000 五里級
80	11	56	(二十五里)	27000 六里級
81	12	57		30000
82	13	58		33000
83	14	59		36000
84	15	60		39000
85	16	61		42000 七里級
	17	62		45000
	18	63	三井物産店	50000
	19	64		
	20	65		
	21	66		
	22	67		
	23	68		

30

増古博早
上社物稲神
寺寺館田宮

新小村平
海寺井田

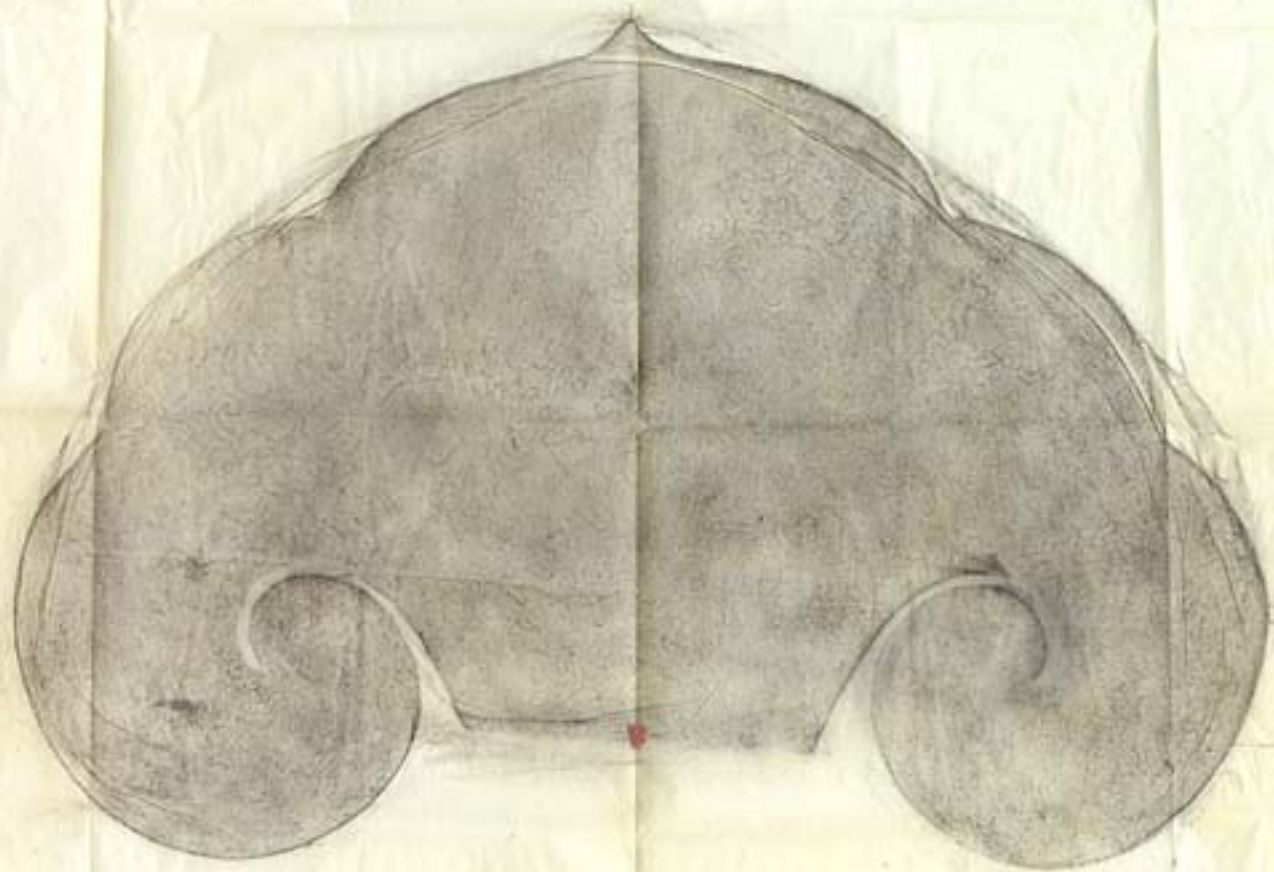
Bel Frau Rosenkilde
Ausbacherstr. 42.
Berlin. W.

佐野
% Iida & Co.
122 Wood str. London EC

寺と石 4.10 5.30
法隆寺 4.17 5.12 6.07 6.57
奈良— 4.39 5.31 6.29 7.21
省へ番
(重、西梅森)

西區江戸堀上通り二
金々旅館
明家園
荻田董烈
名古屋市中長者町
三輪常田
(日蓮宗代)

京都奈良兵庫岡山の社寺



(世) (世)

三、廿 祭

五、二七 京都看

五、四〇 京都看

九、二四 仙傍看

四、〇八 仙傍祭

七、四三 京都看

八時半竹内ヲ訪、九時半歸

十時五六 京都祭

十一、二〇 京都看

仙傍六時半

序篇

1. 建築雑誌に可載の辰野固白説

2. 両極端、矯りて新舊主義、判官の立場

第一 情と理の交渉

3. 欧州大戦ハ情と理との衝突

4. 人間生存の爲ハ情は七いず

5. 情と理とは一長一消して行く

第二 建築界に於ける情と理

6. 建築界ハ情に始り、理に盡し又情に

7. 構造建築ハ意匠に始り、構造に盡し

8. 情と理の建築家、理と情の建築家

第三 現代建築界の二潮流

9. 構造主義と理意匠主義(情)

10. 意匠主義と構造主義

11. 辰野説の固田説の違ひ

終論

12. 情と理の平行策と講ぜよ、分離する

ちとは不可能

鋼材を選ばんと云ふニ、クラシカルなが、ブリックは
 是れを考へ、之は適るるプランを考ふるハ、鉄骨
 あり、今時は鉄骨を考ふるが、鉄筋コンクリートは
 之れを考へ、之は最も合ふプランを考ふるハ、
 切し、鉄骨より、鉄筋として、最も合ふプラン
 である出し、之と実施するに、鉄骨の鉄
 筋とを考へ、之の材料にて、最も合理的な
 表向する形と云ふと、順序と云ふし、
 建築といふ何ぞや曰く、プランあり、

プラン
 材料構造
 様式手法

条件

使用の目的に適合する
 堅牢耐久ナル
 快美ナル

支那建築の概観

総論

(古来支那建築の概観)

研究家ノ不備

(西洋人の著書)

1 定義及範圍

(地方ニヨリテ著書)

2 起源

3 性質

材料及構造

4 二

工法、飾、及び細部

5 三

裝飾

色彩

6 四

プランの規模、規律ノ一律

7 五

沈華

(一母セルニスタイル)

周漢、漢人の代

8 六

六朝

唐

宋元時代

明清時代

9 七

甲

宗教的、特ニ宗教建築

1 古代都

2 仙

3 道

4 佛

5 回教

乙

1 城

2 寛政

3 住宅

4 公共建築(官衙、倉庫、戲臺)

5 橋等

造神宮使廳